

あきたけんたいせんしりつおおまがりちゅうがっこう

いしい よしひろ

学校名 秋田県大仙市立大曲中学校

校長名 石井 義広

所在地 〒 014-0016 秋田県大仙市若竹町 7-17

TEL 0 1 8 7 - 6 3 - 2 2 2 2

FAX 0 1 8 7 - 6 3 - 2 2 2 1

E-mail om-kyokutyu@edu.city.daisen.akita.jp

URL www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-kyokutyu/

1. 研究主題

「新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究」

2. 研究の期間

平成21年度～平成23年度 3年間

3. 研究の目的

本校では新学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究主題を「よりよい生き方を求めて自ら学び共に高め合う生徒の育成～確かな思考に基づいた表現力を育てる指導の工夫～」と設定し、「生きる力」を「かかわる力」と捉え、学び合いの中で思考力・判断力・表現力等を育むことを目指している。保健体育科では運動に主体的に取り組みながら、仲間とかかわり、基本的な技能を身に付ける場を設定することにより、運動の楽しさを体験するとともに体力の向上を図り、コミュニケーション能力や思考力を育むことにも資すると捉えている。

また、新学習指導要領では保健体育科の具体的な目標として「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」が掲げられたが、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力は、保健体育の学習や体育的行事等により育まれる。中でも保健体育の学習において、運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、基礎的な身体能力や知識を身に付けることが、生涯にわたって運動を実践する基礎となるものと捉えている。そのためには指導内容の体系化や評価の在り方、指導方法を研究し、授業改善を図る必要があると考え、本主題を設定し、研究を進めることとした。

4. 研究の方法・実践内容

(1) 3年間の主な取組

平成21年度	※国立教育研究政策研究所の教育課程指定校として授業研究に取り組む。 〈体育分野の取組〉 ○授業公開研究会〔11月30日〕 ・「球技ゴール型」の授業提示 ・「体づくり運動」の授業構想案提示 ・「球技ゴール型」及び「体づくり運動」の単元構造図の作成
--------	---

〈保健分野の取組〉

○授業公開研究会〔11月30日〕

- ・「健康な生活と疾病の予防（保健・医療機関や医薬品の有効利用）」の授業提示
- ・「健康な生活と疾病の予防」の単元構造図の作成

平成22年度

※国立教育研究政策研究所の教育課程指定校として授業研究に取り組む。

〈体育分野の取組〉

○授業公開研究会〔6月3日・10月1日〕

- ・「球技ゴール型」の授業提示
- ・「体づくり運動」の授業提示
- ・「球技ゴール型」及び「体づくり運動」の単元構造図の改善
- ・文部科学省発行「新学習指導要領に基づく体づくりリーフレット」の作成協力

〈保健分野の取組〉

○授業公開研究会〔10月1日〕

- ・「健康な生活と疾病の予防（保健・医療機関や医薬品の有効利用）」の授業提示
- ・「健康な生活と疾病の予防」の単元構造図の改善
- ・全国学校保健研究大会保健学習部会での授業実践発表〔11月19日〕

平成23年度

※国立教育研究政策研究所の教育課程指定校の成果を他領域等で実践

※体育学習テクニカルサポート事業（秋田県教育委員会）の活用による体づくり運動の継続研究

〈体育分野の取組〉

○授業づくり協議会〔7月8日・8月22日〕

- ・単元構造図や本時案の検討

○授業公開研究会〔9月16日・11月4日〕

- ・「体づくり運動」の授業提示
- ・「体づくり運動」の単元計画・構造図の改善を実施

○文部科学省発行予定「学校体育実技指導資料第7集（改訂版）」の作成協力

○文部科学省教育課程課編集「中等教育資料」紙上で実践発表

○秋田県教育研究発表会で実践発表

(2) 取組の主な内容

① 指導と評価の一体化を目指した

「球技ゴール型」

単元計画及び学習内容の検討を行い、「新学習指導要領に対応した単元構造図」の作成とゲームの局面に着目した学習指導の工夫を行った。

特に、第3学年指導内容の「態度」に、愛好的態度、参画、公正、責任、協力、健康・安全が示されているが、望ましい態度を育成するために、示された態度の内容を単元構造図や指導計画にしっかりと盛り込み、確実に指導に生かした。

② 3学年の内容を系統的に研究した

「体づくり運動」

1・2年目は、第1・2学年の指導内容を明確にして各学年の単元構造図を作成した。

特に、「体ほぐしの運動」や「体力を高めるための運動」においては、それぞれ示されている学習内容に応じた動き方の参考となる資料を作成し、指導を行った。

3年目は、第1学年から指導を継続してきた生徒が第3学年となったことから、具体的にねらいに迫ることができるように心がけた。

特に、「体ほぐしの運動」では、リズムダンス（88442211体操）・地藏倒し・不思議な小枝パワー（E・Tゲーム）などを取り上げ、「体ほぐしの運動を行って、自分の心と向き合ってみて、感じたことや気付いたことを記入しましょう。」と主発問を工夫した。さらに、「相手の気持ちが通じたと感じた場面は、どんな場面でしたか。」「その場面では、自分の気持ちはどうでしたか。」などの補助発問も吟味し、よりねらいに迫れるように工夫した。

また、「体力を高める運動」では、健康を意識したコースと体力向上を意識したコースとにねらいが分かれることから、各自運動しながら運動の計画を考えさせるように工夫した。

③ 知識を活用した「保健学習」

「健康な生活と疾病の予防～保健・医療機関や医薬品の有効利用～」を取り上げ研究を進めた。

特に、「保健学習では、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に取り入れることにより、健康に関する思考力・判断力を育むことができるもの」との考えから、思考力・判断力を育むために、習得した知識を自分の生活や事例に当てはめて考えたり、課題を見付け解決方法を考えたりする学習活動を取り入れるなどの工夫を行った。

5. 研究の成果

新学習指導要領で示された中学校保健体育科の具体的な目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」の達成を目指して、運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、基礎的な身体能力や知識を身に付けることが、生涯にわたって運動を実践する基礎となるものであると捉え、指導内容の体系化や評価の在り方、指

導方法を研究し、授業改善を図ることができた。

特に、学習指導要領及び解説に示された内容を基に単元構造図を作成し、指導に生かすことで、学習指導要領解説に示されている内容に沿った具体的な指導に結び付くとともに、より確かな評価を行うことや生徒にとっては段階的で系統的な学習となることが分かった。また、知識、思考・判断について、技能との関連を考え、計画的に指導することができるようになった。

主な取組内容である「球技ゴール型」では、目標、内容、授業、評価の一体化を目指した単元計画の検討により、示されている内容について具体的な指導を行い、より確かな評価を行うことができた。

「体づくり運動」の体ほぐしの運動においては、運動を通して「気付き」、「調整」、「交流」を意識させることができた。体力を高める運動においては、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をねらいに応じて組み合わせるようになってきた。また、それらを実生活にどのように生かしていくことができるかについて理解を深めることもできた。

「保健学習」では、事例を作成して、習得した知識を基に、保健所・保健センター・医療機関のそれぞれが担っている役割について考える学習を行い、思考力・判断力を働かせ、グループ内で理由を話し合う活動を取り入れたことにより、身近な生活と関連させながら、ねらいに迫ることの大切さを理解することができた。

6. 研究の意義、発展性

今回、研究した領域におけるすべての授業で、単元構造図を作成したことにより、段階的で系統的な学習となることが分かり、知識や思考・判断の指導も、技能や態度の指導との関連を考え、計画的に指導することができた。指導と評価の一体化にもつながることで、今後の授業構築の際に参考となるものと感じている。

体づくり運動では、3年間の継続研究によって、生徒は基礎的な身体能力や知識を身に付けることができ、生涯にわたって運動を実践する基礎となる内容に取り組むことができたと感じている。特に、運動と自己との対話を通して学習を進めることで、体を動かす楽しさや心地よさを感じていくというスポーツの根幹とも言える部分に触れることができたと感じている。

知識を活用した授業では、思考力・判断力を働かせる場面を意図的に設定したが、他領域・他教科にも生かすことができると感じた。言語活動など、新学習指導要領で重視されている内容を、実際の学習場面でどのように生かしていくことが大切かなど、大いに授業づくりの手がかりとなってくれればと思っている。